

令和2年度 奈良市立神功こども園 研究実践概要

園長名 鎌田稔子

全園児数 183名

1. 研究主題 生き生きと活動する子どもの育成

ー子ども理解を深める記録や話し合いについてー

2. 研究年度 初年度

3. 研究主題設定理由

子どもたちは保育者とのかかわりを基盤に、自分から周りの環境にかかわり、遊びに取り組んだり思いを表し伝えようとしたりしていく。そして、友達や異年齢児、地域の人等、様々な人と関わることで遊びや生活をより豊かに展開していくことができる。このように生き生きと活動する姿につなげていくためには、日々子どもの姿や経験していること等を捉え、保育者同士が共通理解して次の活動やかかわり、環境構成等に反映していくことが欠かせない。

本園は分園型であり、保育者が行き来したり子ども同士が交流したりする機会を持ち、共通理解につなげるようにしているが、生活リズムの違い等から話し合いの時間を設けることが難しくなっている。こうした状況を改善し、援助や環境構成の充実、生き生きと活動する子どもの育成につなげられるような、子どもの姿を共有するために効果的な記録の取り方や話し合いの時間・場の設け方を考察していきたい。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

保育者間で意識的に子どもの姿を共有し、保育を振り返りながら次に必要な援助や環境構成を考え、生き生きと活動する子どもの姿につなげる。

②研究の重点

- ・生き生きとした子どもの姿を園内で共有し、育てたい子ども像と照らし合わせて、この先子どもに必要な援助やつけて欲しい力を考え保育に反映する。
- ・意見交換のしやすい方法を探り、乳幼児の発達を通して捉える視点を深める。
- ・子どもの姿を読み取るための記録、振り返りの方法について考える。

③活動の方法

〈1. 職員間での振り返り〉

エンスタグラム

子どもの姿を共有し、保育を振り返る取り組みとして“エンスタグラム”を行っている。写真を掲示し、子どもの姿や環境構成等について気付いたことやこうしたらよいのではといった意見を書き込む形をとり、かかわり方について考えたり、意見を保育に反映したりするようにしている。また、乳児棟・幼児棟それぞれで行ったものを相手の棟にも送り、全職員で子どもの姿の共有を図り、乳児から幼児へ一貫して捉えることができるようにしている。

事例1 4歳児7月 トイをつなげて流したい

6月、年長児がトイをつなげて水を流している様子を見て、興味を持った数名が真似してトイを築山に立て掛け始めた。最初は仕組みが分からず、トイも裏向きで設置していたが、次第にどうしたら流れるか分かってくると、トイ同士をつなげて長くしたり、より高い所から流そうとビールケースや積み木を使って傾斜をつけたりするようになった。ペットボトルやお椀、柄杓、バケツなどいろいろなものを

使って水を流したり、こぼさないように気を付けて流したりする姿もあった。また、水と一緒にスズランテープを流して「流しそうめん」に見立て、上から流す子、そうめんをセットする子、下で流れてくるそうめんを箸ですくう子といったように自分のやりたいことに分かれながら遊ぶ姿も出ていた。

エンスタグラムに記入された意見	写真提供者が意見を受けて感じたこと、気付いたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・流す時の顔が真剣 ・こぼれないように水を入れているところをじっと見ている 	<p>子どもが水を流すこと自体に真剣になり、流れた先よりもこぼれないよう水を入れている所をじっと見つめている姿に気が付く声が多い。年長児の真似をしてトイを使った遊びを始めたところで、今は何よりも流すことを楽しんでいるということが分かった</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・バケツ、ペットボトル、柄杓等いろいろな物を使って流している ・様々な形の水をすくうものがある ・水の流れ方（速い・ゆっくり）や水の量（多い・少ない）に面白さを感じていそう 	<p>人数が多かったため水を流すいろいろな容器を準備していたが、それが水の流れ方、量の違いを子どもたちが感じるきっかけになっているのかもしれないと気が付いた</p>

(考察) 子どもの表情から、子どもの活動に対する丁寧さや真剣さを読み取った意見が多く、そこから子どもが何を楽しんでいるのか気付くことができた。また、環境と共にそれにかかわる子どもの姿をあらためて知り、自分が用意した環境の意味について再確認することができた。

事例2 1歳児8月 バスごっこ

園庭には、地面に埋め込まれたタイヤやカゴが並んでいる。その上には日除けがかかっているため、保育者は、疲れたと言う子どもたちと一緒にタイヤに座り休息する。子どもが、「バスみたいやねえ」とつぶやいたのを聞き、保育者が『バスに乗って』の歌を歌い始めると、タイヤや保育者の膝の上で一緒になって歌い、体を揺らしたり、運転手になったりする姿が見られた。その様子を見て他の子どもも集まってきて同じように歌ったり、タイヤに座ったりしていた。

エンスタグラムに記入された意見	写真提供者が意見を受けて感じたこと、気付いたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・先生が楽しそうな表情でいるのが、子どもにも伝わって乗客も増えたのかな ・「先生や友達楽しそう」、「ぼくも」ってかんじかな 	<p>子どもが楽しそう、やりたいと感じ、自分から保育者や友達の方へきている姿を見て、そのタイミングを逃さず一緒に楽しむことで思いを受け止められると感じた。特に高月齢の子どもは、自分の周りで起こっていることにも気付くようになっていたので、楽しそうなことを見つけ、一緒にしたいという思いを表していることがわかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児の子どもはどこを見ているのかなあ ・2歳児の見ている先は同じかな 	<p>遠くを見つめながら休息する2歳児の姿からは、同じ空間にいても思い思いに過ごす乳児の姿が現れているとわかった。年齢に応じた関わり以外にも一人一人の姿を受け止めた関わりの大切さを改めて感じた。</p>

(考察) 一人一人のやりたいこと、気付いたことを受け止め、保育者がイメージをつなげる働きかけをしたことで、休息が遊びへとつながり、周りの子どもたちとの関わりが生じた。子どもの様子や環境構成を丁寧に捉え、保育者が豊かに反応することで、生活や遊びを充実させられると感じた。

事例3 3歳児11月 バーベキューごっこしているよ

プールの横を“ひみつきち”にして工事をしたりアイス屋さんやお肉屋さんなどのごっこ遊びをしている。砂場のところでごちそう作りをしていた子がバーベキューの網を持ってきたことが始まりでバーベキューごっこが始まった。網の上に砂場の型抜きを乗せたり、石や葉っぱをお肉や野菜に見立てて焼いたりしている。焼いた野菜や肉をトングで裏返し、出来上がるとお皿に乗せて近くにいる保育者や友達に「どうぞ」と渡している。一緒に遊んでいる友達とも「これ食べていい?」「まだ焼けていません」と簡単なやりとりをしながら遊ぶ姿も出てきている。

エンスタグラムに記入された意見	写真提供者が意見を受けて感じたこと、気付いたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ トングを使うことが面白いんだな ・ トングを使いこなせている 	友達の様子を見てトングを使って遊んでいるように感じていたが、トングを使うこと自体も面白いということに気付いた
<ul style="list-style-type: none"> ・ 型抜きをごちそうにしているのは3歳児ならではの発想に感じる（5歳児ならまた違う物を使いそう） 	保育者が用意している意図と違う遊び方が多々ある中で、子どもたちのしたい気持ちを受け止めて遊びを進めることが大切だと改めて感じた
<ul style="list-style-type: none"> ・ 炭や薪みたいなもののイメージ？家でやったことあるのかな？ ・ やったことがあったとしたら、遊びにつながっている 	イメージを共有することまでは3歳児には難しいが、友達に興味が出てきた時期だからこそ、友達の様子を見て真似してみたり「こうやって火をつけるねんで」と教えてあげたりする姿も見られるようになってきたと思う

(考察)子どもが何を面白いと感じているのか、保育者自身で気付かなかったこと以外にも気付くことができた。

事例4 3歳児12月 車にいっぱい乗せたよ

11月は手押し車に、目に付いた玩具を入れただけ乗せて、「先生みて、みて」と運んできては見せていた。「いっぱい入っているね」と話すと「いっぱいやろ」「全然重たくないで」と言い、園庭の中をあちこち押して運んでいた。そして、遊びたいところで車に乗せていた玩具を降ろして満足すると、車はそのままだにして違う遊びを始めていた。

しばらく経ち、降ろした玩具を使って遊ぶようになり、今では工事ごっこやバーベキューごっこなどをして遊んでいる。また、気の合う友達と一緒に友達を乗せている。友達が重くて「動かへん」と言うと、近くで見ていた子や乗っていた子が「やったるわ」と言い、交代して遊んでいる。

エンスタグラムに記入された意見	写真提供者が意見を受けて感じたこと、気付いたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ いっぱい用具をのせて運ぶことが楽しいのかな ・ たくさんの用具を乗せているのは自分の用具を大事に守っている？大事なものを持ってどこにも行ける面白さがある？ ・ ただ運んで楽しそうにしていることもある。「気に入ったものでいっぱい」も嬉しいのかな 	<p>運ぶことが楽しいと感じていたが、荷物を乗せることが楽しいのだと感じた。何でも乗せていたのが好きなものや大事なものを、後に使いたいものに変ってきていることにも気付いた。どのようなきっかけや子どもの気付きで遊びが変わっていくのか、観察が必要であった</p> <p>(左記の意見を受けた後)</p> <p>乗せて遊びそうなものやそれを使って遊んでほしいものを近くに置いておくようにした。しばらくして、「これって使っているの」と手押し車にダンボールや三角コーンを乗せて、配達屋さんになって遊ぶ子が出てきた</p>

(考察)保育者が感じていた遊びの面白さとは違う意見を参考にして遊びに必要なものを考えることができ、子どもの遊びを膨らませていくことができた。

エンスタグラムの改善

回覧形式では時間がかかり、保育に反映しづらいという課題があった。そこで、職員室内に掲示する方法に変更し、掲示期限を設けるようにした。

いつでも見られることで、コメントが書かれたその場から保育に反映しやすくなった。また近くにいた保育者同士で話しやすくなり、面白いと感じたことを伝えあったり、他の人の考えに触れたりすることが容易になり、子どもの姿の共有や考えを深めるというねらいに沿ったものになってきている。

〈2. 子どもとの振り返り〉

遊びの記録、そして子どもの姿を読み取る一つの方法として、保育中の遊びの振り返りにも写真を取り入れた。すると、子どもが詳しく話すだけでなく、翌日にしたいことを考えたり友達と悩みを共有したりしやすくなった。また、振り返りの時の子どもの言葉も含めて記録した上で、継続して掲示を行い、その時の子どもの姿や思い、遊びが発展する経過を残すことができた。これにより「あの上手くいったときの写真を見よう」と子どもがやり方を思い出すきっかけになれば、保育者自身が関わりや必要なものを見直す機会にもなっている。

事例5 5歳児10月 どうやったら上手くいく？

園庭の木を使ってターザンロープ作りをしていたA児だが、滑っても途中で止まってしまうため、一緒にしていたB児、C児と最後まで滑るようにしたいと考えた。しかし、いい考えが浮かばず、その日の遊びの振り返りで友達に聞いてみることにした。振り返りの前にターザンロープの写真を保育者が印刷しておく、A児は写真を見せながら「ターザンロープをやって、ここまでは滑るけど、ここからは止まってしまって困った。最後まで滑りたいけどいい方法はない？」と指を指しながら説明をした。すると写真を見て「どうやって作ったの？」「もっとななめにロープを結んだほうがいいんじゃない？」「ロープをもっと強くピーンと引っ張って結んだら？」等、次々と質問やアイデアが出てきたので、保育者は写真に出た考えをや意見を書き込み、子どもたちの見やすい場所に掲示しておいた。違う遊びをしていた幼児が「おもしろそう。やってみたい」と友達の遊びを知ることができ、翌日、もう一度見返し、遊び出すきっかけにもなった。

(考察) 振り返りの前にターザンロープで遊ぶ写真を印刷しておいたことで、A児は写真を見せながら詳しく説明することができた。また、聞いている幼児は実際に写真を見ながらA児の話を聞き、イメージしやすくなり、いろいろな考えを出していた。問題が生じた場合もその日のうちに友達と相談したり共有したりすることができ、翌日の遊びに繋げることができるとわかった。

5. 研究の成果

職員間で、写真を利用した保育の振り返り(エンスタグラム)を行ったことで、場面が想像しやすく、子どもの表情や目線、周りの様子や環境等について、保育を行っていない者が細かく観察することができた。それにより、担当学年以外の子どもの姿を知り発達に見通しを持つだけでなく、自分ならどうするかと考えたり周り意見と交換したりすることで、自身の保育に活かしていく効果があった。また、エンスタグラムを提示した側は記入された意見を受けて、自分では気づかなかったことや自分と異なる視点に触れることができ、子どもの姿や保育内容を改めて考えることにつながった。特に、遊びの中での主なねらいとは異なる部分で身に着けている力や保育者の思う以上に味わっている思いがあり、その都度丁寧に子どもの姿をみとり、次につなげていく意識を持つ必要性を改めて感じている。

そして、子どもとの振り返りにも写真を取り入れたことは保育者が援助や環境について見直す以外に、子どもが遊びを広げていく一つのきっかけにもなった。振り返りの場を充実させられることは子どもの姿を深く読み取ることにもつながり、有効な活用方法だと考える。

さらにこうした紙ベースでの交流は、乳児と幼児が離れている本園では有効な手段であった。特に今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で行き来することが難しく、例年以上に互いの様子を見通しにくい状況だったが、エンスタグラムを用いて子どもの姿を共有し、様々な保育者の意見に触れて視野を広げられた点は良かったと思う。

6. 今後の課題

- ・子どもの姿を共有し、今後のかかわりや環境構成等について考えていくには紙面上で意見を出し合うだけでは不十分なので、話し合いの機会も必要である。話し合う機会の持ち方や頻度、内容について考えていかなければならない。
- ・意見を出し合うポイントについて、「なぜその写真を選んだのか」「みんなの意見として聞きたいこと(この遊びの面白さは？遊び込んでいる要因は？どんな環境構成があったらいいか?)」等のテーマを決め、様々な視点から保育について深めていくことも効果的だと考える。また、貼り出す内容として、遊び以外に環境構成の写真も取り入れて保育の充実を図りたい。
- ・子どもの姿の共有や理解を深める方法は、園庭図を利用し、一週間の遊びの展開を追う、個人の姿の記録をつける等、エンスタグラム以外の方法も考えられるので、様々な方法の効果や課題を考慮しながら探っていく必要がある。
- ・写真を使った記録は遊びの振り返りや経過の記録、保護者に伝えていく手段としても活用できるため、写真の撮り方や言葉の書き込み方を工夫していきたい。